

イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定

農林水産研究所

イチゴ炭疽病は、萎凋・枯死により、**苗の不足や減収**につながるイチゴの最重要病害です。

耐性菌が優占化すると**薬剤の効力が低下**することから、薬剤感受性検定を実施しました。



**耐性菌の発生程度を把握し、
安定的な防除対策へ**

薬剤含有PDA培地上での耐性菌の判定

- ベノミル・ジエトフェンカルブ※1 **両剤耐性菌が約2割**
- アゾキシストロビン※2耐性菌が約5割 → **本剤の使用は困難**

※1 ゲッター水和剤の有効成分

※2 アミスター20フロアブルの有効成分

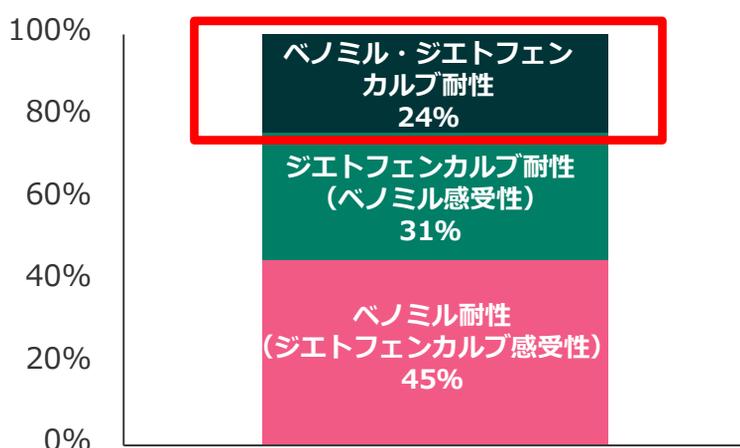


図1. ベノミル・ジエトフェンカルブの耐性菌別割合

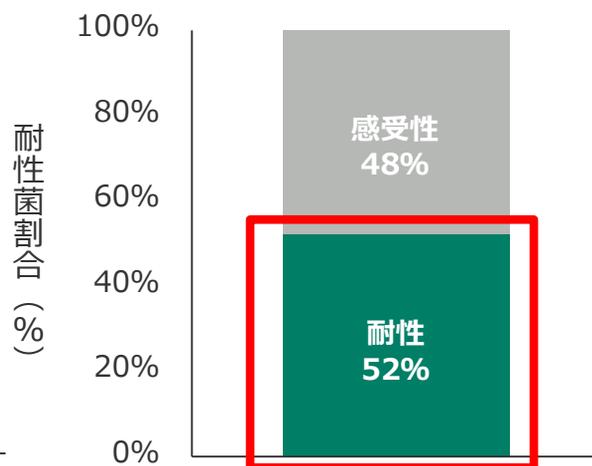


図2. アゾキシストロビン(Qol)の耐性菌割合

【耐性菌を増やさないために】

ベノミル・ジエトフェンカルブ剤(ゲッター水和剤)の耐性菌を増やさない
⇒ ゲッター水和剤の散布回数を極力抑える

- **連用・多用を回避** (予防剤で対応可能な場面での使用を控える)
- **発病初期に散布** → 短めの散布間隔で予防剤につなげる
- **発病株の抜き取り徹底**で感染圧を下げる